

角田市最高峰大森山から伊具盆地や遠く蔵王連峰が望めます この豊かなふる里を未来へ受け継いで行きましょう

### 「御礼とご挨拶」

黒須とおる後援会長 佐藤 勝 征

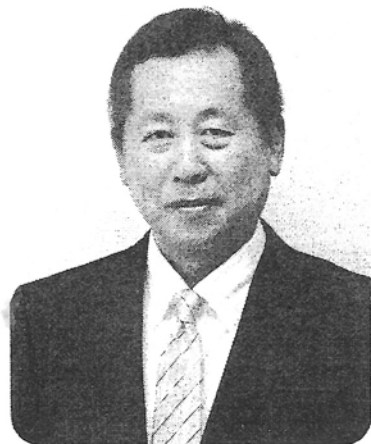
黒須とおるを後援下さっているみなさま、こんにちは。先の選挙では絶大なるご支援、ご協力により黒須とおるを市政に送っていただきましたこと、書面にて失礼ながら、御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

黒須とおるが角田市議会議員になり、早いもので8カ月が過ぎました。みなさまにお約束した事を実現すべく、日夜奮闘しているところです。これまですでに2回の角田市議会定例会を経験し、その中で一般質問もいたしました。2回の一般質問で12の項目を提案し、回答を得ました。新人議員で初回からの質問は異例と思われませんが、若さを武器に前進あるのみです。黒須とおるは、今後更にみなさまの意見、提言を市政に反映すべく取り組んでいきます。

黒須とおるには、若さを前面に出し「ふる里を元気に！そして未来へ！」を合言葉に、角田市の創生、活性化に精一杯頑張ってもらいたいと思います。そのために後援会としても全面的にバックアップしていける体制をつくり、最大限の応援をしていきたいと思っておりますので、みなさまにはよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

### 「ご挨拶」

角田市議会議員 黒須とおる



みなさま、こんにちは。

昨年の選挙には多大なるご支援をいただき、市政壇上へお送りいただきましたこと、衷心より深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

議員職を拝命して8カ月がたちました。たちまち過ぎた感がありますが、経験する全てが新しく、日々おどろきと試行錯誤の連続です。

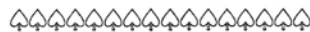
角田市が直面する最大の問題は「少子高齢化」です。45年後には市の人口が現在の半分以下に減ることが予測されています。人口減を抑え、未来に向けて発展し続ける角田市をいかにつくっていくか、待たなしで問われています。

「ふる里角田市の消滅を座して待つわけにはいかない」と選挙で訴えさせていただきました。この思いは議員になりなおさら強くなっています。「ふる里を元気に！そして未来へ！」のキャッチフレーズを胸に、将来に持続していく活気あふれる角田市を創生すべく活動してまいります。

課題は大きく困難です。みなさまのお知恵とお力をいただかなくては成りません。今後ともご指導、ご鞭撻、ご協力を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。そしてオール角田でふる里を創生してまいりましょう。



# 黒須とおるの議会報告



<第380回定例会 12月24日に一般質問に立ちました>

## ○阿武隈川流域の水害対策及び枝野地区の内水対策について

黒須 平成27年9月の関東・東北豪雨では角田市も大きな被害を被りました。地球温暖化などが原因とされる異常気象の時代に、市民の生命と財産を守ることが今まで以上に行政に求められます。

今回の豪雨で、丸森から枝野地区に流れる横堀川が氾濫し広範囲が冠水しました。豪雨時の氾濫が常態化しており、沼尻排水機場の能力不足と思われませんが、対策はありますか。

市長 改善策として上流部の堂畑機関に強制排水施設の造成が必要と考えておりますので、国・県に対し関係町とともに要望したいと考えます。

黒須 阿武隈川は丸森町金山・小斎で急に向きを北に変えますが、枝野地区はその下流に位置します。

堤防は水流に対して強度があるとされますが、長時間浸水、越水した際には崩壊もあり得るとのことです。流域の行政区では水害に備え「自助」「共助」の対策を整えていますが高齢化に伴う避難困難などが予想されます。「公助」を行う行政の防災対策について伺います。

市長 阿武隈川堤防については、決壊リスクを下げる整備を今後とも国にはたらきかけます。



修繕後に堤防の側面が崩れる 早期修復が望まれる

必要です。

避難訓練については、地域ごとに水害を想定し、実際にどのように避難するかなど勉強し、訓練することをしなくてはならないと思っております。

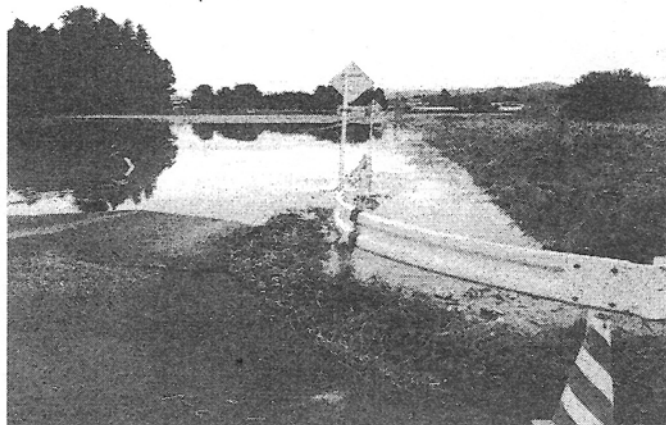
黒須 高台がない枝野地区では新桜井川堤防を緊急避難路としを利用する要望がありますが、整備は出来ますか。

市長 この地域は、洪水ハザードマップでは2～5メートルに浸水する箇所があり、新桜井川の堤防を避難路として使用することは危険ですので、避難路としての整備には課題があると思います。やはり早めの避難が大切です。そのためには早めの避難所の準備をしなくてはならないと考えます。

黒須 市内の会社や工場への防災に関するはたらきかけ、連携について伺います。

市長 水防法に基づき、市の地域防災計画中に要配慮者利用施設（学校や介護施設など）39施設を掲載し、洪水予報等を市から直接伝達することにしてあります。大規模工場へは所有者から申し出により伝達しますが、申し出はありません。ちなみに、同法により大規模工場は浸水防止計画作成を求められます。

※現在国土交通省が阿武隈川流域の洪水可能性について見直しをしております。これに基づいて新しい角田市洪水ハザードマップが28年度中に作成、配布される予定です。



堂畑機関場近くの横堀川氾濫による冠水状況

避難については、市がつくる「避難行動要支援者名簿」の情報を地域と共有し、災害時の避難対策に活用することにしてあります。行政区単位の自主防災組織は現在既に約9割設立しています。公助で網羅しきれない救助活動を自主防災組織に担ってもらえるよう、ともに考えていきます。早めの避難情報を出す取り組みも検討します。消防団においては台風などに対し早めの事前準備を行うほか、住民への情報伝達も担ってもらえるよう協議します。

情報伝達は、スマートフォン等やテレビ、地元の自治防災組織からの声かけ等、確実と思われる方法を複合的に行うべきと考えます。サイレンや行政無線の設置などは、今後もう少し調査研究が

<第81回定例会 3月15日に一般質問に立ちました>

○角田市の人口ビジョン、特に子育て支援事業について

黒須 2月に策定された「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の「人口ビジョン」では、平成72年に半減すると推測される本市の人口について、対策をこうじることによって20,000人を確保する目標を掲げています。人口対策の重要な施策が少子化対策、特に子育て支援事業です。昨年のまちづくり懇談会で市長は『若い世代が子どもを産み育てやすい環境の整備』の施策として「第2子からの保育料無料化」を挙げられました。今後どのように具体化していくのですか。

市長 国は平成28年度から年収380万円未満の世帯を対象に、第1子の年齢にかかわらず第2子半額、第3子以降保育料無料を決めました。現在仙南一低い角田市の公立保育所保育料から、さらに一層の子育て支援強化策である第2子以降の保育料無料化は、平成30年の新角田保育所の会所時期にあわせて、他の施策と併せて、検討していきます。

黒須 本市は、他と比して有効な子育て支援事業を行っています。それらをトータルに平易に、魅力的にプレゼンしていくことも十分に子育て支援の戦略になり得ませんか。

市長 そう思います。しっかりと戦略性を練ってPR活動をします。

黒須 昨年「角田市子ども・子育て支援事業計画」が策定され、本年2月に保育整備に係る今後の方向性について、待機児童解消を見据えながら角田保育所の移設、認定こども園の新設が提案されました。今、男女の別なく交代勤務に就くのは普通です。本市に求められる保育所は、総合的な保育を、深夜あるいは24時間提供できる、規模の大きい施設と考えますがいかがですか。

市長 支援事業計画を策定する際アンケートをとりましたが、ショートステイの希望はありませんでした。よって夜間保育も見送りました。夜間保育が必要な事業所には事業所内保育を勧めたいと思います。働く子育て世帯を支援する保育環境、施設については引きつづき保育所整備計画の中で検討してまいります。

黒須 郡部の子育てを支援するために、郡部の幼稚園や児童館などを、幼稚園と保育所の機能をあわせ持つ認定こども園に移行できませんか。

市長 角田保育所整備計画は、市街地への一極集中を意図するものでなく、市全域の子どものため、親御さんの利便性を高める施設と位置付けています。認定こども園への移行は理想ですがそれで少子化が解決するものではありません。いづれにせよ郡部の子育て支援については今後検討してまいります。

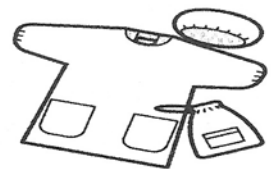
教育長 幼稚園は今後児童数の減少が予想されます。今回の計画とは別に、地域の皆さまと相談しながら検討してまいります。

黒須 まち・ひと・しごと『地域資源を活かした移住・定住の推進』が示されています。移住定住推進と子育て支援は「人口ビジョン」の両輪です。新規転入者を「いらっしやいプラン」で歓迎するとともに、ふる里に帰ってくる子育て世代を手厚く迎える「お帰りなさいプラン」も充実させるなど、柔軟な施策が望まれますが、いかがですか。

市長 平成28年度から、補助対象要件から土地取得要件を撤廃し、基本額のみを助成するシンプルな制度にします。市外から帰郷し家を建てる人、市内在住の子育て世帯も対象になります。「お帰りなさいプラン」というネーミングについては今後検討します。



幼小一環教育で高い評価を受けている枝野幼稚園と枝野小学校  
小規模でも特徴のある保育教育が今後望まれる



## ーとびっくすー

### 平成28年度角田市一般会計予算を可決しました

特に「<sup>にぎ</sup>賑わいの<sup>こうりゅうきょてん</sup>交流拠点施設整備計画関係予算」が争点になりましたが、活発な議論をおこない、以下の点を考慮し賛成しました。

○角田市の生き残りをかけた活性化事業として必要であること

計画は、現在の角田市政の指針である「角田市第5次長期総合計画」、および角田版<sup>ちほうそうせい</sup>地方創生計画「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の<sup>こんかん</sup>根幹を成す事業です。

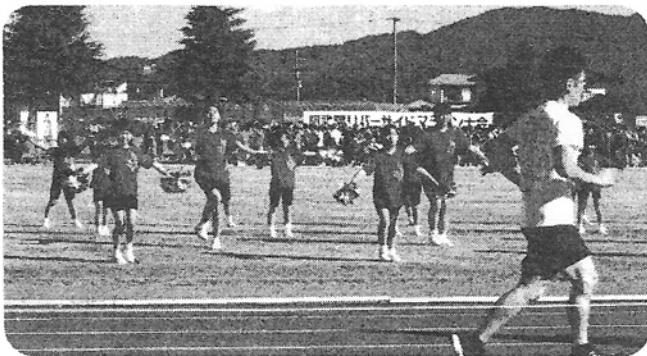
○角田市中心公園との一体化整備で「スポーツ・健康・食」の賑わいの交流エリアが広がる  
角田市中心公園総合スポーツ施設と交流拠点施設が一体化して整備されることで、ほかに類のない角田ならではの交流エリアが生まれます。農・商・工の連携で地域産業が振興し、市街地や市内の交流拠点と連携することで角田市が活性化します。

○いま行わなければ計画実現が困難になる

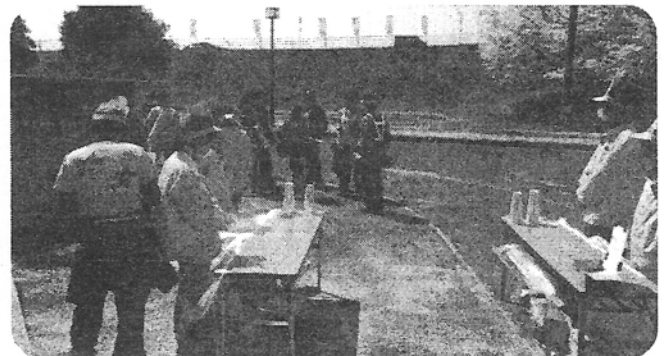
来年以降は制度が変わり国の補助が望めません。単独では財政的に困難です。今後の角田市活性化事業を大幅に見直さなければなりません。

ただし、この度示された計画には多くの心配な点があり、納得したわけではありません。今回は土地の購入と計画・設計に入るといふ、一歩を踏み出すことを認めたのみです。

示され<sup>も</sup>ものはあくまでモデルであり、これからいよいよ実際の計画にづくりに入ります。計画を厳しく精査し、問題があれば修正をうながし、必要に応じて政策を提言するなど、市当局と議会が力を合わせます。運営に主体的にかかわる市民の意見を反映させていきます。市民の皆さんに事業の経緯をていねいに説明し、皆が納得できる、未来ある事業になるよう努力します。可決した責任を主体的に果たしていく所存です。



リバーサイドマラソンは3000人を越える規模の大会



ベガルトレディースは3000人規模のイベントに

## ◇◇◇お知らせ◇◇◇◇◇◇◇◇◇

### 【黒須とおるの所属】

会 派：政友会（6名で構成する最大会派です）

委員会：教育厚生常任委員会（他に総務財政常任委員会、産業建設常任委員会があります）

その他：議会を代表し、みやぎ仙南中核病院企業団議員（各自治体3名）の任についています

### 【黒須とおる後援会の主な役員を紹介】

会 長 佐藤勝征（枝野3区） 副会長 門馬 強（同2区）・只野 茂（同4区）

会 計 星 晋一（枝野5区）

幹事長 山家 隆（枝野1区） 副幹事長 横山義美（同6区）・門馬希道（同2区）

上記のほか、各地区の方々に幹事をお願いしております

複数の方に相談役、顧問をお願いし、ご指導いただいております

◎会員の皆さまからご意見を頂戴したく存じます